

鉄鋼・非鉄金属

1. 評価対象企業（15社）

【鉄鋼】（6社）

日本製鉄、神戸製鋼所、JFE ホールディングス、東京製鉄（新規）、丸一鋼管、大同特殊鋼

【非鉄金属】（9社）

日本軽金属ホールディングス、三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWA ホールディングス、UACJ、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	2	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	10
計		13	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは15名（所属先14社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、**経営陣のIR姿勢等**および**ESG関連**を中心に項目内容を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は73.1点（昨年度73.9点）、総合評価点の標準偏差は7.3点（昨年度7.1点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、鉄鋼（6社）は74.4点（昨年度78.2点）となり、非鉄金属（9社）は72.3点（昨年度71.5点）となった。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が71%（昨年度72%）、**説明会等**が79%（昨年度80%）、**フェア・ディスクロージャー**が81%（昨年度86%）、**ESG関連**が71%（昨年度同率）、**自主的情報開示**が68%（昨年度66%）となった。
- ④ 評価項目について見ると、全13項目中、次の2項目（**説明会等**の中の1項目(a)、**フェア・ディスクロージャー**の中の1項目(b)）が平均得点率80%以上となり、高い水準であった。なお、(a)については、本年度において、項目内容および配点を見直した。

(a) 「四半期ごとに、今後の業績動向に関するアナリストミーティングまたはウェブ会議・電話会議を開催して

- いますか。また、今後の業績予想や投資判断を行う上で必要な情報が十分に開示されていますか」(平均得点率 85% [昨年度 99%]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)) : 70%台 4 社・80%台 8 社・90%台 3 社)
- (b) 「決算説明会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか」(平均得点率 82% [昨年度 85%]) (得点率 : 40%台 1 社・50%台 1 社・70%台 2 社・80%台 2 社・90%台 9 社)
- ⑤ **ESG 関連**の 4 項目は、次のとおりとなった。なお、(d)の平均得点率は 10%台で、全 13 項目中で最も低い水準であった。社外取締役との対話の機会確保について、下位評価企業の改善努力を求めたい。
- (a) 「経営トップが企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に統合報告書等の資料、説明会等で的確に伝えていきますか」(平均得点率 75% [昨年度 76%]) (得点率 : 60%台 6 社・70%台 3 社・80%台 6 社)
- (b) 「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか」(平均得点率 75% [昨年度同率]) (得点率 : 60%台 4 社・70%台 6 社・80%台 5 社)
- (c) 「社会貢献、人的資本、人権リスク、労働安全衛生等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか」(平均得点率 71% [昨年度同率]) (得点率 : 50%台 1 社・60%台 5 社・70%台 7 社・80%台 2 社)
- (d) 「社外取締役との対話の機会が確保されていますか」(平均得点率 18% [昨年度 12%]) (得点率 : 10%台以下 11 社・20%台 1 社・50%台 1 社・70%台 1 社・80%台 1 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 日本製鉄 (ディスクロージャー優良企業 [4 回目]、

総合評価点 81.8 点 [昨年度比 +0.5 点]、昨年度第 3 位)

- ① 同社は、**説明会等**が第 1 位 (得点率 (以下省略) 90%)、**経営陣の IR 姿勢等**が第 2 位 (82%)、**ESG 関連**が同得点第 3 位 (78%)、**フェア・ディスクロージャー**が第 5 位 (86%)、**自主的情報開示**が第 8 位 (71%) となった。昨年度に比べ、**自主的情報開示**の得点率が大きく改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門における人員の充実や情報量の多さなど、十分な資源配分を行っているとの声が寄せられた。また、「経営陣の IR 姿勢」も第 3 位となった。これに関連して、経営トップ自らが積極的に情報発信を行うなどの IR 姿勢を評価する声があった。なお、株主還元や ROE 改善、株主資本コスト低減に関する一層のメッセージを望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、4 項目全てが最も高い評価 (同得点第 1 位を含む。) となった。これらに関連して、最新の技術動向を含めて、説明会の資料が充実しているとの声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」が同得点第 1 位となった。これに関連して、説明会の質疑応答の内容をウェブサイトに掲載している点を評価する声があった。なお、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第 7 位となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」が最も高い評価となった。また、「経営陣の ESG に対する取組姿勢」もトップと僅差の同得点第 2 位となった。なお、「社外取締役との対話の機会が確保されていること」は同得点第 10 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」は第 8 位 (昨年度第 10 位) となったが、昨年度に比べ、得点率が 10 ポイント以上改善した。評価できるイベントとして、瀬戸内製鉄所広畑地区見学会を挙げる声が多かったほか、US スチール買収に関する説明会も挙げられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第1位 UACJ (ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕)

総合評価点 81.8点〔昨年度比+2.8点〕、昨年度第4位)

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第1位 (83%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位 (88%)、説明会等 (86%)、ESG 関連 (78%) が同得点第3位、自主的情報開示が同得点第4位 (76%) となった。昨年度に比べ、5分野全てで順位が上がり、総合順位において第1位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。また、「IR 部門の機能」も同得点第4位となり、これらの結果、この分野において第1位 (昨年度第4位) となった。これらに関連して、経営トップが IR に積極的で、建設的な議論ができるとの声や、情報開示や IR 活動に市場の意見を反映しているとの声が寄せられた。また、経営トップのスマールミーティングの開催を評価する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「インタビューにおいて、企業分析に有益な対話がなされていること」が同得点第1位となった。また、「決算説明会等における会社側の説明が十分であること」(同得点第2位) および「四半期情報開示」(同得点第4位) は共に 85%以上の得点率であった。「説明会資料等における実績および見通しの開示」は第5位であった。これらに関連して、子会社収益などの開示内容が、より充実してきたとの声が寄せられた一方、収益の増減益要因がわかりにくいとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第1位となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」(同得点第4位) は、90%以上の得点率であった。これらの結果、この分野において同得点第1位 (昨年度同得点第3位) となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「経営陣の ESG に対する取組姿勢」が最も高い評価となった。また、「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」が同得点第2位となった。これらに関連して、ESG 説明会を評価する声があった。なお、「社外取締役との対話の機会が確保されていること」は第5位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」は同得点第4位 (昨年度第9位) となり、昨年度に比べ、得点率が 10ポイント近く改善した。評価できるイベントとして、福井工場見学会および IR・Day を挙げる声が多かった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第3位 神戸製鋼所 (総合評価点 80.5点〔昨年度比-3.3点〕、昨年度第1位)

- ① 同社は、ESG 関連が第1位 (81%)、説明会等が同得点第3位 (86%)、経営陣の IR 姿勢等が第4位 (78%) 自主的情報開示が第7位 (74%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第7位 (83%) となった。昨年度に比べ、ESG 関連を除く4分野において得点率が下がったが、高水準を維持した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が第3位となり、「経営陣の IR 姿勢」は第6位となった。これらに関連して、市場との対話機会を重視する経営陣の IR 姿勢を評価する声があったほか、ROIC 経営を打ち出し、株価を意識した情報発信を強化しているとの声もあった。IR 部門については、人員が充実しているとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会資料等における実績および見通しの開示」が同得点第2位となり、トップと僅差であった。「四半期情報開示」も第3位となり、90%以上の得点率であった。これらに関連して、定量的な開示が広がり、企業への理解度が深まり、先行きの方向性が見えるとの声があった。また、「説明会、インタビューにおける開示」の2項目は、共に 80%以上の得点率となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」が同得点第1位となった。一方、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は第14位となり、昨年度に比べ、得点率が大きく下がった。
- ⑤ ESG 関連においては、「経営陣の ESG に対する取組姿勢」がトップと僅差の同得点第2位となり、また、「ESG に関する情報開示」(3項目) が同得点第1位となった結果、この分野において昨年度に続き第1位となった。これらに関連して、ESG 説明会や社外取締役パネルディスカッションの実施を評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」

は第7位となった。評価できるイベントとして、高砂工場見学会、機械事業説明会、コベルコ建機工場説明会などの開催を挙げる声が多かった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（鉄鋼・非鉄金属）

（単位：点）

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価項目2 (配点30点)	評価項目4 (配点20点)	評価項目2 (配点10点)	評価項目4 (配点30点)	評価項目1 (配点10点)	評価項目1 (配点10点)	順位	順位	
1	5401 日本製鉄	81.8	24.7	2	17.9	1	8.6	5	23.5	3	7.1	8	3
1	5741 UACJ	81.8	24.8	1	17.1	3	8.8	1	23.5	3	7.6	4	4
3	5406 神戸製鋼所	80.5	23.4	4	17.1	3	8.3	7	24.3	1	7.4	7	1
4	5711 三菱マテリアル	79.6	23.5	3	15.4	9	8.8	1	23.6	2	8.3	1	8
5	5411 JFEホールディングス	78.8	22.8	7	17.5	2	8.4	6	23.1	6	7.0	9	2
6	5706 三井金属鉱業	77.6	22.9	6	16.3	6	8.2	10	22.0	7	8.2	3	6
7	5713 住友金属鉱山	76.0	21.1	8	15.2	11	8.7	4	23.5	3	7.5	6	7
8	5463 丸一銅管	73.9	20.6	10	16.5	5	8.3	7	20.2	9	8.3	1	9
9	5471 大同特殊鋼	71.8	20.3	11	15.5	7	8.3	7	20.1	10	7.6	4	10
10	5801 古河電気工業	71.7	20.8	9	14.5	14	8.8	1	20.8	8	6.8	10	5
11	5803 フジクラ	70.5	23.1	5	15.5	7	6.8	14	18.8	12	6.3	11	11
12	5714 DOWAホールディングス	65.1	18.2	12	15.1	12	8.1	12	18.2	15	5.5	13	12
13	5703 日本軽金属ホールディングス	64.1	17.2	14	14.1	15	8.2	10	18.5	14	6.1	12	14
14	5802 住友電気工業	63.9	18.0	13	14.8	13	7.6	13	18.8	12	4.7	14	13
15	5423 東京製鐵	59.3	16.9	15	15.4	9	5.1	15	18.9	11	3.0	15	
	評価対象企業評価平均点	73.09	21.22		15.86		8.07		21.18		6.76		

2024年度評価項目および配点（鉄鋼・非鉄金属）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが企業価値向上（成長期待、資本効率、資本コスト）への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)IR部門の機能	
・経営トップがIR部門の重要性を認識し、十分な資源配分を行っていますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①決算説明会等における会社側の説明は十分ですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
②インタビューにおいて、企業分析に有益な対話がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(2)説明会資料等における実績および見通しの開示	
・収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されており、かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	5
(3)四半期情報開示	
・四半期ごとに、今後の業績動向に関するアナリストミーティングまたはウェブ会議・電話会議を開催していますか。また、今後の業績予想や投資判断を行う上で必要な情報が十分に開示されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	5
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供	
・決算説明会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか。	5
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
(1)経営陣のESGに対する取組姿勢	
・経営トップが企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に統合報告書等の資料、説明会等での確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)ESGに関する情報開示	
①脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか。	8
②社会貢献、人的資本、人権リスク、労働安全衛生等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか。	5
③社外取締役との対話の機会が確保されていますか。	2
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・工場見学、事業説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。[過去1年間を目安に評価]【充実していた工場見学や説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	10

鉄鋼・非鉄金属専門部会委員

部会長	山口 敦	SMBC 日興証券
部会長代理	五老 晴信	UBS 証券
	井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	尾崎 慎一郎	大和証券
	白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	竹元 宏和	明治安田アセットマネジメント
	松本 裕司	野村証券

評価実施アナリスト(15名)

井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	中村 宏司	QUICK
岩崎 彰	大和アセットマネジメント	西脇 秀敏	三菱 UFJ 信託銀行
荻野 晃	丸三証券	藤岡 哲也	アセットマネジメント One
尾崎 慎一郎	大和証券	松本 裕司	野村証券
五老 晴信	UBS 証券	宮原 秀和	丸三証券
白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券	虫明 直槻	東京海上アセットマネジメント
竹元 宏和	明治安田アセットマネジメント	山口 敦	SMBC 日興証券
竹間 雅子	SOMPO アセットマネジメント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。